

「なぜ、いま制定するのか」など質問続出 検討委員会が議会基本条例素案についての説明会開催

上越市議会議会基本条例策定検討委員会（内山米六委員長）による議会基本条例素案の市民説明会が23日、26日、27日と行われました。

初日の会場は春日謙信交流館です。議会関係者以外では26人の方が参加され、熱心な意見交換が行われました。私の担当はパソコン操作です。質問に関連するスライドを映しだすのが役目でしたが、参加者の質問にも答えました。

この日の説明会では、「なぜいま議会基本条例を制定しようとしているのか、その動機が分からない」「条例の検討をしている最中でも、請願の審査においては反対討論もしないで反対する事態が依然として続いている。今の議会運営に問題があるから制定するのか」「どこを変えようとしているのか伝わってこない」などのそもそも論から始まって、「市長との緊張関係とは何か。緊張関係とどう向き合おうか。市民との緊張関係の大事ではないのか」「政策形成の流れの中で議長ポストをどう位置付けるのか」など具体的な条項にかかわる質問も次々



春日謙信交流館での説明会の様子

と出ました。

対応が難しいなと思ったのは、「口利き」あるいは「口利きの行為」をしてはならないことを明記すべきではないか、という提案です。「口利き」というのは、「間に立って紹介や世話をすること」をいいます。確かに「口利きで市役所への就職が決まる」ようなことはあってはなりません。住民要望、陳情と「口利き」をどこで区別するかは微妙です。それと、条例に載せるにしても議会基本条例でいいのかどうか。私は政治倫理条例が必要だと思っています。「良心と責任感をもって責務を果たすこと」（基本条例素案）といったレベルでは実効が上がるかどうかは疑問です。

この日の意見交換会では議会に対する要望や提案がいくつもありました。「平日の昼間、勤務している人も多いので、休日、夜間に議会を開催してほしい」「議会報は最近充実して読みやすくなったが、発行回数を増やしてほしい」「一問一答方式の採用は遅すぎるくらいだ。質問するところ（答弁するところ）をどうしたらいいか考えてほしい」いずれも検討すべき大事な問題です。

議会基本条例をめぐる動きについては続けてお知らせします。

地域活動支援事業審査は6月29日

吉川区地域協議会が24日開催されました。この日は、注目の地域活動支援事業の審査について熱の入った議論が展開されました。

この事業の提案書の受け付けはすでに始まっていて、来月の14日までです。その後、提案



会議の前に有線放送農協を視察

のあった事業一覧、採点票などとともに吉川区独自に作成した質問票などが協議会委員に配布されます。そして場合によっては応募者によるプレゼンテーションが実施され、地域協議会の審査へと流れていくスケジュールとなっています。これら一連の流れの説明を受けた後、委員からは、「ここまで細かに申請していただくとなると事務的な仕事に慣れていないと出せないのではないか」「日程的にきびしい」など次々と意見や提案が出ました。

最終的には6月19日（土）までに、提案書に対する各委員の質問を締め切り、プレゼンテーションをやる場合は、6月27日（日）と決まりました。また、地域協議会の審査は6月29日（火）に行うこととなりました。



シリーズ 上越市内の橋 第40回 川谷大橋

「川谷大橋」と書いて「かわたにおおはし」と読みます。県道大潟高柳線、吉川区川谷地内にあります。「大橋」と名はついていますが、大橋と名はついていないもの、歩いて十数歩で渡れる小さな橋です。橋の下を流れる水の源は尾神岳、とてもきれいな水です。この橋から二百メートルくらい離れたところに「川谷橋」があります。

橋長は約10m。竣工は1970年（昭和45年）です。

春よ来い 第一一四回 スライド上映

柏崎の父が米寿を迎えたことから先日、ささやかな祝う会を開催しました。「どうせ開くなら、潮風が吹き、海の匂いがあるとこの方が父は喜ぶのでは」と妻が提案し、海辺のホテルの一室を借りることにしました。

集まったのは義父母と子ども、その連れ合いなど八人です。この日は五月晴れ。しかも波が静かで、海はまるで湖のようでした。先に到着したのは私たち夫婦と母の三人だったので、予約した和室に入った途端、窓の外の景色に惚れ惚れしてしまいました。窓から見える海や街並みが絵のように美しかったです。

ただ、私はゆつくりと景色を楽しんでいる余裕はありませんでした。というのはこの日の朝、妻から、「父も母も、きょうの会ではスライドを見せてもらえらるものと思っっているみたいだよ」と聞いたので、大急ぎでスライドづくりをしなければならなかったからです。

ホテルにはパソコン、スクリーンなどを持ち込みました。パソコンにはデジタルカメラで私が撮影したものが七分分くらいあるほか、昔の写真を画像データとして読みこんだものも少し入っています。部屋に入ってから三〇分ほどの間にこれならいいと思う写真ファイルを二十数枚探し出し、スライドを作成しました。

義父は十数年前から肺の機能が徐々に弱り、いまではトイレに行くだけでも息を切らすほどになっています。この日は酸素ボンベを持つての参加ですので、場合によっては遅くなるかも知れないと心配したのですが、ほぼ予定通り会場に到着。母などとの久しぶりの再会を喜び合いました。

一休みしてから開会です。畳の上には参加した八人のために、それぞれのテーブルと椅子が用意され、ご馳走が並んでいます。義兄が開会の挨拶をのべ、生ビールで乾杯しました。その後、すぐに私の順番がやってきました。スライドの上映です。

一枚目。東京から柏崎の家に親戚の人がやってきた時の食事風景をバックに「○○さんの米寿を祝う会」の文字と会場名を入れたものを映し出したところ、「おいおい、場所が違うんじゃないか」と笑いが起こり、ヤジが飛びました。二枚目。五歳の頃の長女が牛舎で牛に餌をくれている写真です。「かわいいわねえ」という声は義母の声かな。こんな調子で二五枚のスライドを上映しました。親戚の人たちとの旅行の写真、孫の子どもの頃の写真など懐かしい写真が何枚もあったのが良かったのでしょうか、バタバタと作成した割には大きな拍手をもらいました。

スライドを見てからは、楽しい話が続きました。今年の一月、柏崎の母も私の母も目の手術をしています。白内障の手術ですが、術後の話で大笑いしました。「手術をしたら顔のシワが見えちゃってさ。病院の鏡、でっけねかね、そこにハッキリと写っていた」とやっています。

言うまでもなく、会では酒も食べ物もたくさん出ました。次々とご馳走が運ばれてくるものですから、みんながせっせと食べました。柏崎の父が、「もう食うのがやになっちゃった」と言うと、義母が「おまさん、飲み過ぎたんだこてね。血管浮き出ているねかね」。また、みんなで笑いました。

来年は私の母も柏崎の母も米寿を迎えます。ふたりとも「祝いなんてやらなくていいよ」と遠慮していますが、みんなで山菜料理を食べたいねとも言っていました。この日、みんなが大笑いした写真は、来年の会のスライドで使おうと思います。

地域活動支援事業 まだ疑問や戸惑いが...

吉川区総合事務所主催の地区別懇談会が23日、吉川区内3会場で行われました。懇談会の目的は、吉川区内における上越市の新年度主要事業、社会福祉協議会の新年度主要事業の説明と意見交換です。(写真は源地区会場での様子です)



この日は小学校の運動会と重なったことなどから参加者は全体で36人とどまりましたが、各会場とも閉会予定時間を大幅に遅らせざるを得ないほどたくさんの意見、要望などが相次ぎました。

もっとも意見や注文が多かったのは、新年度新規事業である地域活動支援事業です。吉川区には650万円が配分されることになっていて、10日から来月14日までが募集期間となっているのですが、市民の間ではとまどいや疑問がまだまだ多いことがわかりました。

Nさんは、「内容的に見てももよ一んとしている。

地域や団体で相談するにしても来月14日までというのは急ぎ過ぎだ」と発言しました。また、Kさんは、「団体で申請しても7割補助(吉川区では審査の評点により補助率が変わる仕組みを採用)と決定した場合、3割の金があるかどうか問題となる」と悩みを語りました。Uさんは、「市の共通のサービスで上乗せ、横出しはできないものか」と質問しました。

このほか、今年度取り組む予定の事業をあげて、対象となるかどうかとか、事業申請の様式はあるかなどの質問が出されました。

新年度主要事業ではこのほか、「自主制作番組はどれくらいお金がかかるのか」「BSが入らなくなるといのが本当か」などケーブルテレビ事業についての質問やゴミの不法投棄、市道の草刈り、県道側溝の掃除などについて注文が出されました。

なお、吉川コミュニティプラザ会場で、「年々、懇談会参加者が減っている。もっと工夫を」という声がありました。地区別懇談会は吉川区が合併前の吉川町時代に行っていた懇談会の伝統を守って継続しているものです。ぜひ、開催方法などを工夫し、大勢の人たちに参加してもらえるようにしてほしいですね。